

# 決算報告

平成24年度の決算が、9月遠野市議会定例会で認定されました。決算概要から見た財政状況についてお知らせします  
問い合わせ 市経営企画部(☎62-2111内線140)

## ◆一般会計目的別決算状況◆

### 歳入 225億8,469万円



### 歳出 215億8,350万円



※各数値は単位未満を四捨五入して端数処理をしています

### ■効率的な財政運営を推進

平成24年度の一般会計の決算は、歳入総額225億8,469万円、歳出総額215億8,350万円で、予算額243億3,592万円に対する歳出の執行率は88.7%となりました。また、歳出予算のうち平成25年度に繰り越して使う予算は、公共牧場再編整備事業費などの18億5,811万円です。

市の貯蓄に当たる「主要三基金」の合計額は前年度に比べ2億7,211万円減の33億3,656万円。市の借入に当たる「市債」は13億6,630万円増の210億5,354万円になりました。市債増の要因は、平成23年度からの繰越事業や遠野中学校の改築などに係る借入によるものです。

### ■歳入の財源の大半を国に依存

歳入は、市が独自に確保できる自主財源の割合が全体の24.6%でした。国や県から配分されるお金(地方交付税や国・県支出金などの依存財源)の割合は75.4%であり、依然として国の動向に左右されやすい財政体質となっています。

### ■歳出は教育、福祉を中心に実行

歳出の内訳は教育費が最も多く全体の22.6%で、本年4月の新設中学校の開校に向けた準備や、総合食育センターの供用開始に向けた整備が実行されました。続いて民生費が22.4%で、子育て支援の充実や高齢者福祉対策に引き続き取り組んだほか、農林水産業費が7.7%となりました。

### ◆健全化判断比率◆

(財政の健全度を示す5つの指標)

地方公共団体は毎年度、実質的な赤字や他団体を含めた実質的な将来負担などを表す指標(健全化判断比率)と、公営企業を含めた資金不足額を表す指標(資金不足比率)を議会に報告し、公表しています。

平成24年度の本市の健全化判断比率と資金不足比率はいずれも健全段階でした。

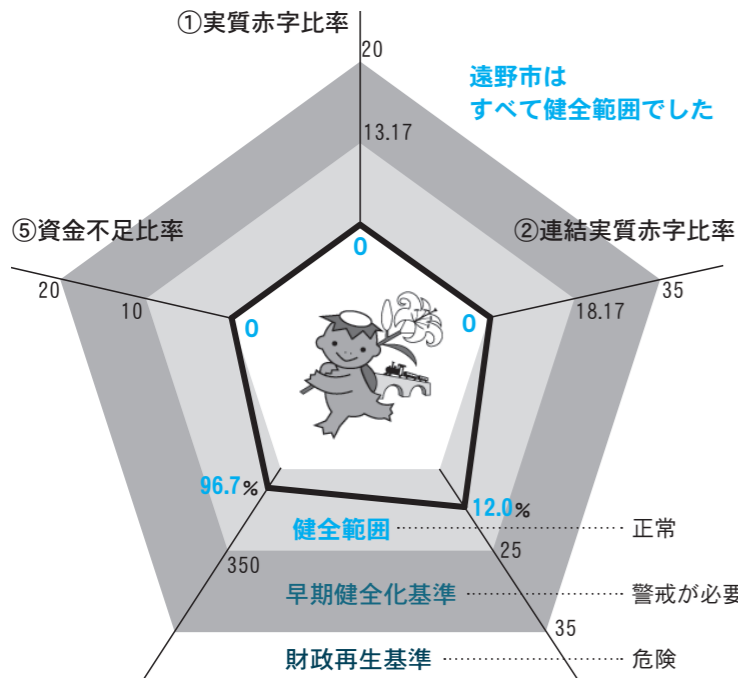
① **実質赤字比率**  
健全化判断比率は「0%」でした。本市は「0%」で、黒字の場合は「0%」。本市は「0%」で、黒字の場合は「0%」。

② **連結実質赤字比率**  
財政規模に対して、市の持つ全ての会計の赤字額の割合を示した数値。黒字の場合は「0%」。本市は「0%」。

③ **実質公債費比率**  
財政規模に対して、借金の返済や負担を約束した総額が、どのくらいの割合かを示した数値。数値が低ければ良いことになり、本市は「0%」でした。

④ **将来負担比率**  
財政規模に対して、借金の返済や負担を約束した総額が、どのくらいの割合かを示した数値。数値が低ければ良いことになり、本市は「0%」でした。

⑤ **資金不足比率**  
農業集落排水事業特別会計、下水道事業特別会計、水道事業会計の事業規模に対する資金不足額の割合を示した数値。資金が不足していない場合は「0%」。本市は「0%」でした。



④ 将来負担比率      ③ 実質公債費比率

## 健全財政5カ年計画の達成状況

( )は前年度の数値

■ 経常収支比率...100%に近づくほど市が自由に使える財源が乏しくなるとされる数値

計画値	実績値	達成状況
85.8% (85.9%)	81.0% (80.6%)	達成

■ 市税等収納率...課せられた税金が、実際に納付された割合

計画値	実績値	達成状況
96.31% (96.26%)	97.44% (97.22%)	達成

■ 貯蓄の状況 (財政調整基金、市債管理基金、公共施設等整備基金の合計額)

計画額	決算額	達成状況
23億4,900万円 (24億3,900万円)	33億3,656万円 (36億867万円)	達成

■ 借金の状況

区分	計画額	決算額	達成状況
借入額	25億7,300万円 (42億2,600万円)	33億260万円 (28億7,010万円)	未達成
市債残高	228億1,500万円 (222億3,800万円)	210億5,354万円 (196億8,724万円)	達成

## 用語解説

**収入関係**  
▶ 繰入金/基金などから繰り入れて行政サービスの経費などに充てる財源 ▶ 地方交付税/一定の行政サービス水準を維持するために国から配分されるお金 ▶ 国庫・県支出金/特定の事業を行う際にその経費の財源として国や県から交付されるお金  
**支出関係**  
▶ 総務費/市役所庁舎などの管理、税金の徴収

などに使うお金 ▶ 民生費/社会福祉や高齢者、障がい者など一定水準の生活を保障するためのお金 ▶ 衛生費/ごみ、し尿処理など、生活環境を保持するためのお金 ▶ 商工費/商工業や観光を促進するために使うお金 ▶ 土木費/道路や公園などの整備や補修などに使うお金 ▶ 消防費/消防や防災活動などに使うお金 ▶ 教育費/幼稚園、小・中学校、生涯学習などに使うお金 ▶ 公債費/市の借金(市債)返済などに使うお金

これらの詳細を表した「歳入歳出決算書」、「主要な施策の成果説明書」、「健全化判断指標」などは市のホームページで公開しているほか、市経営企画部でも閲覧できます。

## 各会計決算

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
一般会計	225億8,469万円	215億8,350万円	10億118万円
特別会計	86億76万円	82億8,513万円	3億1,563万円
国民健康保険(保険事業分)	38億3,511万円	36億2,165万円	2億1,346万円
国民健康保険(直営診療施設分)	1億8,739万円	1億7,157万円	1,582万円
後期高齢者医療	2億8,478万円	2億8,457万円	20万円
介護保険(保険事業分)	29億7,085万円	29億2,070万円	5,015万円
介護保険(介護サービス事業分)	1,456万円	1,420万円	36万円
ケーブルテレビ事業	5億2,290万円	5億1,223円	1,067万円
農業集落排水事業	8,164万円	7,915万円	249万円
下水道事業	7億354万円	6億8,105万円	2,249万円
合計	311億8,545万円	298億6,863万円	13億1,681万円

※各数値は単位未満を四捨五入して端数処理をしています

## 水道事業会計決算

区分	金額
収益的収入(水道料金などの収益)	7億5,524万円
収益的支出(減価償却費など)	6億311万円
資本的収入(国などからの借入金、工事負担金)	2億8,152万円
資本的支出(工事費、借入金の返済)	4億5,942万円

※資本的収支の不足額1億7,790万円は、「当年度分損益勘定留保資金」などで補てんしました